

講座「ボランティアをコーディネートする」

《参加アンケートより》

●いつもは相談を受ける側なので、ロールプレイで、相談する側になって気付いたことがありました。「話を聞いてもらいたいんだ」ということです。情報とか、アドバイスとか、結論を求めている訳じゃなく、ただ聞いてほしい…という時があるということ。受ける側が質問し過ぎて、事情聴取になってはいないか、相手が何を求めているのか、時には相槌だけでいいんじゃないかとも思いました。敏感に感じ取る、察する、そういう感性、能力も必要なんだなぁと思いました。いいコーディネーターができると、相手も、自分も納得できて、よかったなぁという思いにたどり着くことがわかりました。

●ボランティアコーディネーターの役割が理解できた。各々の要素を対等にする。個々の課題解決だけでなく、社会化を支援するという視点を持ち、新たな力を生み出せるようにするところに、すごみを感じました。

●異なるもの（多様なもの）をつなげていくという点は、社会的に開けている印象で、大きな可能性が感じられました。

●相談の内容に対し、決めつけず、色々な考えで気持ちを受け止め、対応してゆきたいです。

●実際に相談がありうる内容でのロールプレイは、とても現実的に感じ、楽しんで一日勉強出来ました。

●1 + 1 = 2ではなく、∞だって思いました。

8月4日、ボランティア地域づくりコーディネーター力講座第2回「2「ボランティアをコーディネートする」を開催しました。講師は龍谷大学教授の筒井のり子さんです。受講生は、中間支援組織や施設、地域等でボランティアや困りごとの相談を受けている方が中心。ロールプレイも交えて、実践につながる学びとなりました。



「異なるもの、多様なものを、対等の関係でつなげる」コーディネーターの役割について学びます。いろいろな人が参加し、ともに困りごとを解決する社会的な意味を考えました。

講義後半は、ロールプレイ。実際にありそうな相談事例を元に「相談者」「相談を受ける人」「観察者」になって疑似体験してみます。



やってみて、どうだった？ グループごとに発表し、相談に対しどんな背景が考えられるか、どう対応したらいいのか、みんなで議論しました。